

今日の空は一面の曇り空でしたが、不思議なことに太陽の位置だけははっきりとわかりました。写真の中央に、ぼんやりとした白い円が見えますが、これが雲越しに見える太陽です。普通、厚い雲に覆われると太陽は完全に隠れてしまい、どこにあるのか見当もつかなくなります。しかしこのときは、空全体が灰色に曇っているにもかかわらず、太陽だけが淡く光のにじみとして浮かび上がっていました。

このような現象は、太陽の前に「高層雲」が広がったときによく見られます。高層雲は地上およそ5000～7000メートルほどの高さのできる雲で、氷の粒や細かな水滴から成り、空を薄い幕のように覆います。そのため太陽光は完全には遮られず、雲を通して柔らかく拡散した光となって地上に届きます。結果として、空が明るいまま太陽の位置だけがぼんやりと見える状態になります。

ただし、典型的な高層雲の場合はもう少し太陽が明るく、輪郭もはっきり見えることが多いものです。今日の空では、肉眼で直接見てもまぶしくないほど太陽がぼやけていました。おそらく高層雲の層が通常よりも厚く、かなり濃密だったのでしょう。太陽の光が強く散乱され、柔らかい光の円として見えていたのだと思われます。

高層雲は日本では古くから「おぼろ雲」とも呼ばれます。春の夜、雲に包まれてぼんやりと見える月を「おぼろ月」と言いますが、今日の太陽はまさにその昼版と言える光景でした。空に浮かぶのは月ではなく太陽ですが、その姿はやさしくにじみ、まるで「おぼろ日」と呼びたくなるような静かな春の空でした。

